

カルメル

霊性センターニュース



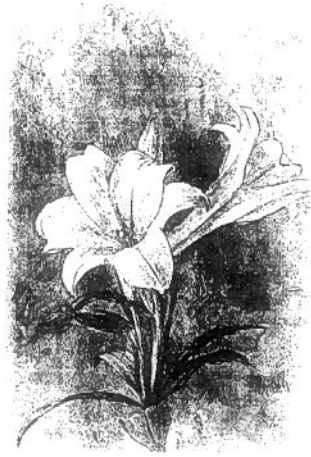
2014年12月

304号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二卷

第八章 イエスとの親しい友情

4 イエスのために、イエスのうちに

イエスのためにすべての人を愛しなさい。しかしイエスはイエスとして愛しなさい。イエス・キリストだけを特に愛しなさい。すべての友人以上に、彼は忠実なよい友だからである。彼のために、彼において、友人も敵も愛しなさい。すべての人々が彼を知り、彼を愛するように祈りなさい。特別に自分だけがほめられよう、愛されようとしてはならない。それは、唯一、至高の神だけが望むことができるからである。また、あなたが誰かから特に愛されようと望むな、そして、あなたの心も人への愛に占領されるな。イエスだけが、あなたの心とすべての善人のうちにいるように、望まなければならない。

5 主は優しい

どんな被造物にも束縛されず、清い自由な心をもちなさい。「主がいかに優しいお方であるか」(詩編 34・9)を知り、その友情を味わおうと思うなら、ほかのどんなものへの愛も捨て、清い心を神にささげなければならない。あなたが、この世のすべてから解き放たれて、神とだけ一致するには、先に神の恵みを受けて導かれなければならない。神の恵みが人間にくだる時には、人はどんなことでも成し得るが、恵みがなくなれば、貧しく弱くなり、苦しみに動揺する状態のままで取り残される。しかしそのような時にも、人は失望落胆してはならない。むしろ、快く神のみ旨を受け、自分の身に起こることをことごとく、イエス・キリストの光栄のために忍ばなければならない、冬が過ぎれば夏になり、夜が過ぎれば昼となり、嵐が過ぎれば快晴となるからである。

聖テレジア生誕500年記念を祝って

日々神と親しく生きる -12月-

ここまで

小さくなられた神を
わたしは恐れることはできません

わたしは愛する 幼いイエスを！
～テレーズ～



飼い葉桶におかれた神は

そこで涙を流して 泣いていた・・・

人間の涙は 神のものとなり

よろこび（歓喜）は 人のものとなった、

それと これとは（人間の涙と神のよろこび）

常に 縁のないものだったのに

～十字架の聖ヨハネ～

この子は泣いています

ごらん かれは あなたを呼んでいます

大声で私に呼びかけて 何を私に求めるのですか

「かれを愛しなさい かれはお前を愛し

おまえのために 寒さにふるえているから」

ごらん かれは あなたを呼んでいます！

～アビラの聖テレサ～



神がわたしのうちに置かれた恵みと託された使命が要求することを日々素直に受け、生きていきますように。

よいご降誕をお迎えになりますように。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す（14）

くのり 彰

「仲間を赦さない家来」のたとえで、「16 万年分の負債」を赦されているのは、「他ならぬ私だ」という意識は、私たちの場合、きわめて希薄である。それどころか、「私はかなり頑張っている」、「かなりいい線をしている」と、うぬぼれているのである。「自分は正しい立派な人間だ」という自負が、兄弟姉妹の自分に対する負債を赦さないのである。

「16 万年分の負債」とは言うまでもなく、神に対する私たちの罪であり、この罪の自覚が、自分に対する人の罪など、まったく些細なことにしてしまうのである。自分とはとてもない罪人であるという自覚が、仲間の人間を罪人として厳しく裁くことを不可能にするのである。

アヴィラの聖テレジアは、その著作の中で、自分ほど罪深い者はいないと繰り返し述べている。現実には、罪らしい罪は何も犯していないと思われるのだが、聖人となるということは、自分がいかに罪深い者であるかを深く悟り、ますます神と人の前に謙遜となっていくことであると思われる。聖女は、「我らが人を赦す如く、我らの罪を赦したまえ」の解説のところで、「でも私のように、人に赦してあげるべきものはほとんどなく、赦していただかなければならないことは山ほどある哀れな者はどうしたらよいのでしょうか」（『完徳の道』36, 2）と言っている。

では、テレジアが意識している罪深さとは何かと言え、前回も指摘したように、神に背を向け、自分を世界の主にしようとする私たち皆が持っている自己中心的な傾き、罪への傾き（原罪）のことと思われる。もちろん、神学的には、キリストの十字架の贖いの死によって、私たちは、「すでに」すべての罪から解放されたわけであるが、現実には、「まだ」その傾きから完全には解放されていないということである。

それは、洗礼の秘跡によって、私たちはみな聖人とされたはずなのに、いまだに自他ともに、聖人とはなっていないのと同じである。いわゆる原罪の残滓が、私たちの中で今でも働き、私たちをさまざまな罪へといざない、聖なる者となることを妨げているのである。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (86)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

跣足修道者とは、神を信じる修道者

格言集に実によく反映されているこの世の辛辣で風刺的な見方は、修道士や修道女に関してもかなり手厳しい格言を何百も造り出してきました。

アウグスティノ会、カルメル会、三位一体会等、跣足（訳注：はだしのこと）と称される修道者に対する格言の中には、「跣足の修道者は、他人の長靴をはく」という同情的なものもあります。

ここで取り上げるのは、跣足カルメル会士に関するものですが、それは、十字架の聖ヨハネの偉大な格言であり、本当の格言、金言と言えるでしょう。聖人が、カステッヤール近くのサンタ・アナの地所に移った時、彼はそこでとても幸いな日々を過ごし、すべてのことにとてもよく気を配りました。バエサにもどろうとした時、もう一度、「家の中にある物をすべて眺めました。お金があれば、彼は清貧とは見えないそれらの物や他の物を集めて、運び出していたことでしょう。私は、——聖アンナのヨハネは言っていますが——そう感じたので、何のためにお金を持つのか、それはそのような孤独の地にあっても何も不足しないようにいろいろ工面するためだと言いました。十字架のヨハネは答えました。「跣足の修道者は、いろいろ工面する修道者ではなく、神を信ずる修道者でなければならない」と。

彼の目下である哀れな聖アンナのヨハネと兄弟たちが集めた、これらの「盗品」に目もくれなかった十字架のヨハネ修士は、何と偉大な跣足の修道者であったことでしょう。

十字架のヨハネ修士ととても親しかった修道女の一人、カラバカの修道院長聖アルベルトのアンナは、『カルメル山登攀』とも呼ばれている『完徳の山』のスケッチを見る者は、そこに聖人が教えた教説の総合ばかりでなく、「どれほど、この地上のものから離脱し、跣足となるべきか」を見ることでしょうか、と言っています。



「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」(マルコ1, 3)。

預言者とは、将来において起こることを前もって告げる人と言うよりは、今、この時、わたしたちに出会いに来られる神、無論、未来に起こる神との決定的な出会いの時の姿とは異なった姿ですが、わたしたちとの人格的な接触に来られる神との出会いに民を準備し、急がせると言う任務を持っているものです。このような意味での、預言者の最後の者、そして最大な者が洗礼者ヨハネです。そして、主イエスの到来後には、イエスの言葉と生涯による福音を、すべての時代、すべての地域の人たちに宣言し、一人ひとり人間と神との出会いを触発してゆく人たちすべてが、洗礼者ヨハネの後継者です。しかし、洗礼者と現代の宣教者、わたしたちが、決定的に異なる位相に生きていることは、現在では、主の実像をわたしたちは知っていますし、また、主の派遣された目的、罪の赦しと神の子とされることの実現化の現実の中に生きていることです。ですから、洗礼者ヨハネは、まだ実現化されてはいない現実を約束として言葉でのみ告知し、現代の宣教者たち、そして、わたしたちは、救いをすでに実現化され、実行力を持っているものとして人々に語るのです。宣教の言葉を、今、ここで、耳で聴き、その言葉を心で信じ、身を委ねる時、わたしたちは主の救いの道に入っているのです。

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」、この預言者イザヤの言葉は、無論、洗礼者ヨハネのものですが、現代の宣教者の言葉でもあり、そして、わたしたちのものでもあるべきです。がしかし、決定的に異なった次元の上で響き、わたしたちを揺り動かしてきます。洗礼者までは、この準備は、その道を指し示す神の言葉、また、預言者の模範があることは事実ですが、人間が自分の能力、善意、意欲で実現化すべきもの、人間が自分の力と善意で果たすべきものでした。しかし、今日のわたしたちには、すでにイエスの十字架の死と復活の事実によって実現化された救いの実のり、聖霊の息吹が注がれています。いずれにせよ、現代のわたしたちは、この聖霊の新しい力に包まれて人々を招き、その力に動かされ、支えられて、主の道を準備するようにと招く声であるのです。わたしたちは、今日、宣教する人の言葉、特に、聖体祭儀の中で宣言される福音の言葉を、どのように聞いているのでしょうか。預言の言葉、今日、わたしたちとの人格的出会いに来られる方をお迎えし、その方との親しい交わりに心を開く決断への招きとしてでしょうか。ルカ 渡辺幹夫

待降節 第3主日

みことばのひびき

(ヨハネ1:6-8, 19-28)

「喜びなさい、主は近くにおられる」、これは今週の日曜日の典礼全てに及ぶテーマです。これは救いの喜びです。救いは全ての人、特に貧しい人、身分の賤しい人に与えられる喜ばしい便りです。待降節の第3日曜日は、常に喜んでるように全てのキリスト者を招いている「ガウデテ（喜びなさいの意）の日曜日」と呼ばれています。

本日の福音朗読で神のみ言葉は、神はイエス・キリストに見出される「光」の到来を告知知らせる証し人として、特別の使命を持った洗礼者聖ヨハネを送られたと述べています。

もし私たちが、喜びとは愛する人や物を持つことであつたりそれを待ち望んだりすることを無上の喜びの状態であると定義するならば、洗礼者聖ヨハネの生涯は犠牲と困難なものでしたが、喜びに満ちあふれたものでした。この意味でキリスト教は喜びの生き方です、キリストの到来を悲観的に待つのではなく、キリストのご現存に積極的に参与するのです。聖パウロは私たちキリスト者の生活を三つのよい忠告にまとめています：喜びなさい、祈りなさい、感謝しなさい。私たちは特にミサの中で、私たちの間においでになる神の栄光のご現存を喜びます。私たちは、イエスがなさったように、三位一体の神と一致するために祈ります。私たちは、たくさんの無償の贈りものをくださる神に感謝します。今日私たちは、洗礼者聖ヨハネのように喜びみ満ちあふれたイエスの証し人となるように、この世の暗闇の中で太陽の輝きの光となるように、招かれています。

今日私たちは神の言葉を聞きました。私たちが聞いたこの美しい語句は、真の喜びと幸福は神においてのみ見出すべきであるということのを思い起こさせます。神においてのみ真の喜びと幸福を見出します。神を捨てた人は悲しみと苦しみの途上にあります。待降節は、私たちの問題に対する喜ばしい答えは神にあるということのを思い出させてくれます。イエスが第一の三つの掟を「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして神を愛することである」と要約されたとき、イエスは私たちに深い永久的な喜びと幸福への掟をくださっています。私たちが経験するどんな不幸であっても、実は神不在という経験なのです。神は私たちの不安、心配を完成する方、私たちの必要、欲を満たす方です。私たちがクリスマスを祝う準備をし、イエスを通して私たちの生活の中に神の到来の準備をするとき、自分は他の人たちの生活の中にイエスをもたらず道具となるように呼ばれているということも思い出す必要があります。キリストをクリスマスのお祝いの中心に置く必要があります。キリストこそがクリスマスのお祝いの中心にある唯一の贈りものです。

私たちのところに来てくださろうとしている主、もうすでに来てくださっている主、必ず再び来てくださる主を、喜びのうちにお待ちしてクリスマスの準備をいたしましょう。イエスの喜び、クリスマスの喜びは、私たちがイエスと共に他の人たちの生活にもその喜びをもたらすために働く程度に応じて私たちのものとなります。イエスが私たちに会うために待っていてくださる場所は、特に喜びの祝いであるミサの中です。私たちはまた、貧しい人たちの姿の中に、長い間身体的あるいは道徳的な囚われに苦しんでいる人たちの姿の中に、その人自身が招いた監獄の中にさえ、イエスを発見します。今年のクリスマスにこの人たちに喜びをもたらすならば、私たち自身が自分自身のために喜びを見いだすでしょう。

(Sr. Paulina)

「おめでとう。恵まれた方。主があなたと共におられる」(肋1, 28)。

この大天使ガブリエルの言葉は、より原文に忠実に訳出するなら、「おめでとう」ではなく、「喜べ」となるべきものです。この喜べは、新しい時代が、罪とその結果により苦しんでいる人間たちの時代が終わり、神のみが開始することができる救いと祝福の時代が始まることを告げるものです。と言いますのは、実は、この天使の言葉は、「娘シオンよ、喜び叫べ。主はお前に対する裁きを退け、お前の敵を追い払われた。イスラエルの王なる主はお前の中におられる」(ソフォニア 3, 14, 15) との、ソフォニア預言者による旧約のバビロン捕囚の時代の終わりを告げる言葉と呼応しているものだからです。バビロン捕囚は、イスラエルが神との契約に誠実ではなく、その罰として、ある意味で自業自得でイスラエルが陥っていた状態です。自分自身のいかなる努力をもってしても脱却不可能な状況です。神の憐れみのみが突破口を開くことができる絶望的な出口なしです。このような状況を、神は主導権をもって、無償の憐れみから、新しい時代に転換する、この神の働きが始まる、この転換点を告げる預言者の喜べなのです。大天使の「喜びなさい、恵まれた方」にも同じ響きを感じ取ることができます。罪と死の闇に閉じ込められていた、自分の力では脱出不可能であった捕らわれの状況から、神が無償の憐れみの愛から動かされて、人類を解放し、自由にするに、その営みが始まろうとすることを告げるものです。この神の営みの前に立たされるのは、一人の貧しいナザレの少女マリアなのです。マリアは、罪の闇に苦しむ人類の一員として生きている、しかし、神によって恵まれた方であるからこそ、人類が陥っている苦しみの真実な次元を感知でき、この苦境から解放する神の無償の働きのかすかなしるしをも把握できる方として、群衆の中に、その先頭に立っている。そのマリアに、今、神は働き始めようとしていると、告げられたのです。「喜びなさい」と。この神の働き、罪の支配からの人類の解放の計画の実現化には、マリアは霊も体も、全人格を奉献し、その進展、成就に貢献します。ナザレの貧しい少女は、天の御父の憐れみを実現化する方、受肉した神の御言葉、イエスの母となるように定められていたのです。マリアは、このお告げを、ご自分にはまったくふさわしくない神の無償の憐れみ、神のみが主導権を取って実行される罪の支配からの全人類の解放のお告げとして、受け入れます。大天使のお告げは、マリア個人のためにと言うよりは、全人類の代表として、この神の計画を受諾するのです。

ルカ 渡辺幹夫

聖 家 族 (ルカ 2 : 22—40)

今年一年の終わりにわたしたちは聖家族を祝います。この日、わたしたちはそれぞれの家族と全ての共同体のメンバーを神の祭壇に捧げます。聖家族をとおして特別な祝福と恵みをいただくためです。また普遍的な教会の基となる一つ一つの家族が聖性に招かれていることを思い起こすためでもあります。聖家族はイエスを中心とした一つの小さな家族、神聖な神の御子イエスと母マリア、父ヨセフの、お互いの愛の絆で結ばれている家族に与えられている名称です。クリスマス直後の日曜日に聖家族を祝い、聖家族に心を向けることによって、わたしたちは各々の家族を静かに顧み、聖なる模範と勇氣、イスピレションを受けるのです。懸命に働き、助け合い、理解し合い、お互いを受け入れ、愛の中で御子を育むマリアとヨセフの姿はイエスの人間的な、それ以上に神の御子としての完成された成長を促すものでした。

この世界の全ての家族は神のご計画のうちに存在しています。天地創造のときから神は人が独りでいることをお望みにならず、家族単位で人類を創造なさいました。そのために神はご自分の御子を罪以外の全ての点でわたしたちと全く同じ人間として、ある家族の中に誕生させられました。この地上の家族、人間同士の親しい交わりである家族は、聖父と聖子と聖霊の三位一体の神の愛の交わりのしるしであり似姿です。神の御子のご自分を無にし、全てにおいてわたしたちと同様、無力で完全に人に依存した姿でお生まれになりました。御子のご自身が創造された世に来られたのですが、世はそれを知りませんでした。御父も御子を神の力で奇跡的に保護なさることはなさらず、御子の世話をするための人の家族を準備なさったのです。家族は生まれてくる子どものために特別な安全な場所を用意するものです。神の独り子のためにはその場所さえ無かったのです。

前教皇ベネディクト XVI は聖地に巡礼されたとき、同行の皆に聖家族の静けさと愛をいつも黙想するよう促されました。わたしたちキリスト者の家庭生活のお手本とするために。マリアとヨセフ、イエスの真の愛によって営まれる日常生活の模範は、わたしたちにより深くこの世の家族の神聖さを感じさせます。こうして神は、結婚によって新しい家族を創ろうとする二人がその誓約によって生涯を通しての忠誠を誓い、またそのために必要な祝福と恵みを神からの贈り物として与え、神聖なものとするのを計画なさいました。ここでまたわたしたちは聖ヨセフのことを考えます；神が一家の柱としてお立てになった正しい方、ヨセフの強い父性からイエスは様々の徳を学ばれました；男性的な敬虔さ、自分の言葉に対する忠実さ、高潔さと労働することの尊さを。ナザレの大工さんの仕事場で、イエスは愛の奉仕が無限に豊かな実りをもたらすことを体得なさいました。最後にわたしたちは公生活を始めるまでの長い間マリアとヨセフとともに過ごされたイエスを眺めましょう。わたしたちの家庭が、聖家族の愛で満たされますように！調和ある幸せな家庭を創るための相互愛をわたしたちの心に燃やしてくださいますように！聖家族に祈りましょう。 (Sr. Paulina)

四季の散策に快適な森林公園が近くにあり、まるで自分の庭さながらに足しげく通いつめていました。

しかし、夫が大病を病み体力も気力もすべてがおぼつかなくなって、ここ一年ほどは行かずじまいとなり、もはや再び行くことも叶わないかと半ば諦めてもいたのですが、或る日、あまりにも明るい陽の光と春のような和やかさに心奪われ、行こうよと夫に声をかけました。たくさん歩かずにだめだったら途中で帰ってこよう、と。

秋の季節が持っている寂寥感にはまだ届かず、辺りはむしろ豊かなとりどりの色彩があふれ自然のいのちの神聖な営みに温かく包まれる感があり、いのちの呼応というのでしょうか、この自分もまたこうした自然のいのちの一部であるのだとしみじみと思われ感慨深くありました。

夫は杖をつきゆっくりゆっくりと歩いていつものお弁当所までたどり着きました。今日はウォーキングなどではなくお昼ご飯を食べるのが目的なのでほっと一息です。

ここは周囲を背の高い樹木に囲まれてぼっかりとあいた広場で、ステージのような木製デッキが設えてあり、そこへ向けてスタジアムのように腰掛けられる段段が並び、お弁当を広げるには格好の特等席なのです。今日もそこここにいくつかのグループが陣取っていて楽しい笑い声があがっています。

色づく梢を渡ってくる風は自然の精気を伴って体の中に流れこみ吹き抜けていくかのようです。腰を下ろして手を伸ばし、足を伸ばし、背中を伸ばしてうらかな陽ざしを浴びて思い切り深呼吸をしました。

もたもたのそのそとそれでも身も心も満ち足りてお弁当を食べ終わり、服薬も滞りなく済ませ、カメラなど取り出してもたもたのそのそと互いを撮り合ったりしていた時のことでした。少し離れたグループから一人の女性が急ぎ足でこちらへ近寄ってこられ「どうぞ お二人一緒でお撮りしますから」とカメラに手を差し出されたのです。突然なことにびっくりしました。わざわざすみませんと恐縮しつつカメラを渡し、二枚ほど写していただいたのですが、「遠くから拝見していて素敵なお二人で思わず来てしまいました」と言われて更にびっくりしました。

思い当たるのです。私ももう少し若い時分に老夫婦のそのような場面を映画のシーンで印象深くみました。沈みゆく夕日を寄り添って見つめる

老夫婦のショット。もうそこまで来ている別離、終焉。言葉につくすことのできないここまでの久しい歩み。すべてはいいのだという深い受諾。肯定。

二人を結び、導いてきた一筋の光が、そこに見えるかのようなシーンです。

私共ももしかしたら若い人の目にはその情景であったのでしょうか。帰路その女性のグループの傍らを通りかかり、先ほどはと礼を述べると「どうぞお気をつけて」と優しいいたわりの言葉がかえってきました。私はとても素直な気持ちになって、女性の目に映る老夫婦そのままになって、心からの笑みを返しました。

思ったより夫の調子も良く、少しばかりの散歩もできて気分は上上でした。

出口に近いベンチで一休みして、あらためて澄み渡った青空を仰ぎました。何という果てのなさでしょうか。どこまでもどこまでも雑じり気のない青一色が続いて、天と地の距離感が失われその青い青い果てのなさへと全世界が吸い込まれてしまいそうです。この青空 この世の記念にしようね よく覚えておこうねと言い合って暫し見とれました。

神さまの恵みでこの世に生まれ、キリストに拾い上げられ、主イエズスにいく度もいく度も出会い続けて、今ここにあるのだという深い感覚に体中が震えるほどに圧倒されました。

帰宅して夫はぐっすりと昼寝をしました。一方私はなぜか無性に天地創造を読みたくなったのです。聖書の好きな個所なので数えきれないほど読んできたのですが、今日は何か違うものがありました。先刻のこの世の記念の青空のせいでしょうか。どう云ったらよいのでしょうか。書かれてあること物語、景色、その感動を、きっとこれまでは自分の範囲で自分の手元で味わっていたと思われるのですが、今、そうではなくこの私の方が書かれてあること、物語、景色のただ中へと吸い込まれるのでした。聖書を引き寄せるのではなく私の方が中へ入っているのです。神さまの天地創造、天と地、昼と夜、生える植物群、動物たち、そしていのちの息を吹き込まれた私。その上何よりも何よりもそれらすべてのものが「はなはだよかった」とされたこと、泣きたいほどにうれしいことだったので。

「主イエズスにおける神の愛から私たちを引き離すものは何もない」

秋麗かな今日は不意に天から降ってきたようなはなはだよい日でした。

いのちの言葉 12月

下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。
食べ物を持っている者も同じようにせよ。

(ルカ 3・11)

クリスマスを迎える準備期間である待降節は、洗礼者ヨハネの姿があらためて浮き彫りになります。ヨハネは、メシアの到来に備えて道を整えるため、神から派遣された人でした。彼は自分のもとにやって来る人々に、生活を大きく変えるよう求め、「悔い改めにふさわしい実を結べ」¹と語りました。そして「わたしたちはどうすればよいのですか」²と尋ねる人々には、次のように答えました。

下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ。

なぜ自分のものを他の人に与えるのでしょうか。それは、相手も私と同じように神から造られ、私の兄弟姉妹であり、私の一部分と言える存在だからです。ガンジーも「私があなただけを傷つけるなら、自分を傷つけることになります」³と語っています。私たちは、愛である神の似姿として、互いに贈りものとなるよう造られました。私たちは生来、愛という神聖な掟を備えているのです。イエスはこのことを、地上に来られた時にはっきりと示され、ご自分の新しい掟として「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」⁴と言われました。これは「天の規則」であり、三位一体の生活が地上にもたらされたもの、福音の中心と呼べるものです。天においては、御父・御子・聖霊が満ち満ちた交わりの中で生き、完全に一つでおられますが⁵、地上で私たちも、互いに愛し合えば愛し合うほど、本来の自分自身でいられるでしょう。御子は御父に「わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのもの」⁶と言われました。私たちの間でも、精神的な富に限らず物質的な富も分かち合われるなら、相互愛は、満ち満ちたものとなるでしょう。

隣人が何かを必要としている時、それは皆が必要としているのと同じです。だれかに仕事がないなら、私に仕事がないことになります。だれかのお母さんが病気なら、自分の母親のように、助けの手を差し伸べましょう。飢えている人々がいれば、自分が空腹であるかのように感じ、自分にするように彼らのために食べ物を探すことができます。

これは、エルサレムの初代キリスト者たちがしていた経験です。彼らは「心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有して」⁷いました。富の分かち合いは義務ではありませんでしたが、彼らは熱心に実践していました。それは、聖パウロが言うように、ある人々を貧困から救い出すために、他のだれかを貧しい状態に置くのではなく、皆の間で「釣り合いがとれるように」⁸することでした。

チェザレアの聖バジリオは言います。「あなたが取っておくパンは、空腹の人のものです。あなたが洋服ダンスにしまっておくコートは、裸の人のものです。あなたがこっそりためているお金は、貧しい人たちのものです」⁹と。

聖アウグスチヌスも言っています。「金持ちが余分に持っているものは、貧しい人たちの所有物です。」¹⁰

「貧しい人たちも、互いに助け合うことができます。ある人は足の不自由な人を助けることができ、目の不自由な人の目になってあげられます。病気の人を見舞うこともできます」¹¹と。

下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ。

今も私たちは、初代キリスト者のように生きることができます。福音はユートピアではありません。それは、教会に生まれた新しい諸運動も証していることです。これらの運動は、人々が新鮮な心で初代キリスト者のように全面的に福音を実践するため、また不正や貧困のはびこる現代社会が投げかける大きな問題にこたえるために、聖霊が教会の中に引き起こされたものです。

フォコラーレ運動の初期の頃を思い出します。この新しいカリスマによって、私たちの心には、貧しい人々への特別な愛が注がれました。私たちは道で貧しい人に会うと、住所を聞いて書きとめ、後で訪ねては助けるようにしました。私たちにとって彼らはイエスでした。「あなたはそれをわたしにしてくれた」^{1 2}とイエスは言われたからです。私たちは貧民街を訪ねた後、彼らを家に招待し、一番きれいなテーブルクロスと一番よい食器を使い、よく準備された食事を出しました。こうして最初のフォコラーレで、私たちは、フォコラーリーナ、貧しい人・・・と交互にテーブルを囲みました。

ある時私たちは、貧しい人、そしてすべての人に仕えるため、自分たちも貧しくなるように神が望んでおられるのを感じました。そこで最初のフォコラーレで、部屋の真ん中に、各々が余分に持っているものを出していきました。手袋、帽子、毛皮のコートを出した人もいました。今では、フォコラーレ運動の中に、利益を貧しい人たちに提供する会社も設立されています。

しかし「貧しい人たち」のためにできることは、まだまだたくさん残されています。

気づいていないかもしれませんが、私たちには分かち合える多くの富があります。たとえば「心の敏感さ」や「状況を把握する力」があるなら、それを一層研ぎ澄ませることによって、隣人を具体的に助け、兄弟愛を生きる方法を見つけられるでしょう。また他の人のために時間を使うこと、祈ること、言葉や手紙を通して心の豊かさを分かち合うこともできます。バッグ、ペン、本、お金、家、車など具体的な物も、他の人に役立ててもらえます。「いつか使うだろう」と多くのものを取っておいているかもしれませんが、今、あなたの隣に、それを緊急に必要としている人がいるかもしれません。

植物が必要な水分だけを地面から吸収するように、私たちも必要な分だけを持つようにしたいものです。何か足りないものがあると気づくなら、持ち過ぎているよりも、少し貧しい方がよいことを思い出しましょう。

聖バジリオは言います。「すべての人が、自分に必要なもので満足し、余分なものを必要な人に与えるなら、金持ちも貧しい人もいなくなるでしょう」^{1 3}と。

では、このように生きてみましょう。イエスはきっと私たちに百倍の報いを与えてくださるので、私たちはさらに与える機会をいただくでしょう。だれに与えるにしても「あなたはそれを私にしてくれた」と、人生の終わりにイエスは私たちに言ってくださるでしょう。

キアラ・ルービック

- | | | |
|------------------|--|-----------------------------|
| 1) ルカ 3・8 | 2) ルカ 3・10 | 3) 「心の言葉」(ウィルヘルム・ミュー 1996年) |
| 4) ヨハネ 13・34 | 5) ヨハネ 17・11 参照 | 6) ヨハネ 17・10 |
| 7) 使徒言行録 4・32 | 8) ニコリント 8・13 | 9-11) 「キリスト者の格言と引用」(1994年) |
| 12) マタイ 25・40 参照 | 13) Aforismi e citazioni cristiane (キリスト者の格言と引用) 44頁 | |

* 今月の言葉は2003年12月に発表されたものです。

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東 12月14(日) 13:30~ 神奈川 かつりつ藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 12月14日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎 12月 7日(日) 14:00~17:00 長崎フォコラーレ・センター

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424 E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ヘンリ・ナーウェンの 旅路の糧（182）



神の心における一致

愛は、森羅万象、すべてを一つに結びつけます。神の心と全被造物の心と私たち自身の心は、愛において一つとなります。これこそ、すべての偉大な神秘家たちが、時代を超えて私たちに伝えようとしてきたことです。ベネディクト、フランシスコ、ビンゲンのヒルデガルト、ブラバントのハデウェイヒ、マイスター・エックハルト、アビラのテレジア、十字架のヨハネ、ダグ・ハマーショルド、トーマス・マートン、その他大勢の人々が、皆、それぞれの仕方、それぞれの言葉で、すべてを一つに結びつける神の愛の力を証してきました。

けれども、彼らは皆、知的な議論によってではなく、観想的な祈りによって彼らのものとなった知識を語ったのです。イエスの霊は、彼らに、神の心と、宇宙の心と、私たち自身の心の一つであることを垣間見させたのです。神の心において、私たちは、森羅万象、すべてのものの一致の完全な実現に至ることができるのです。（1116）

私たちの指導者たちの貧しさ

貧しさや苦しみや痛みなどを、主に、あるいはひたすら、教会の底辺で起こる現実として捉える傾向があります。私たちの指導者もまた貧しいのだと考えることは、滅多にありません。けれども、教会のトップにおいても、大変な貧しさ、深い孤独、苦痛に満ちた孤立、本当の鬱、ひどい感情的苦しみなどが存在するのです。

私たちには、教会の指導者たち——牧師や神父、司教や教皇——の苦しみを認め、彼らも弱い者たちの仲間に加える勇気が求められています。私たちが、指導的地位を与えられた人々の権力や富や成功に目を奪われないならば、すぐに彼らの無力さや貧しさや失敗に気がつき、教会の底辺の人々に差しのべようとする同じ共苦の愛を、彼らにも自由に差しのべようとするのを感じることでしょう。神の目には、底辺とトップの間には、何のへだたりもないのです。私たちが目の目においても、へだたりはあってはならないのです。（1104）

九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

イエスの聖テレジア生誕500周年記念 ベルギーのフランドル管区で開始

2014年11月4日



私たちの聖なる母聖テレジアの喜びの精神がこだまする生き生きとした祝典とともに、ベルギーの跣足カルメル修道会フランドル管区では、聖女の生誕500周年記念が開始されました。この500周年記念を開始するために“カルメルファミリーの日”が企画され、約200人の、カルメル会修道士、修道女、在世会員と、カルメルの霊的家族である修道会の会員がこれに参加しました。

その日は、ドキュメンタリー映画の上映で始められました。この映画の中で、カルロス・ノイエ神父と在世会の3人の会員は、現代のように忙しい世界において、どのようにテレジア的霊性を日常生活

の中で生きるべきかについて、証しをしています。その後、カルロス・ノイエ神父は、“ナダテトゥルベ”（何も思い煩うな）という聖テレジアの有名な詩について講演しました。彼は、その詩を理解する方法について、イエスの聖テレジアが人生において体験した内容に応じて行うという新たな考えを披露しました。

この集いは、管区長ルーラント・ヴァン・マルシェ神父の司式によるミサで頂点に達しました。このミサには12人の司祭が共同司式で加わりましたが、その大多数はカルメル会士でした。跣足女子カルメル修道会フレミッシュ連盟から37名の修道女が、100人以上の在世会会員とともに参加しました。いつも男子修道会の教会に通っている信徒はこの数に入っていない。修道女たちと司祭団は、跣足カルメル修道会の紋章の入った旗を先頭に行進しながら、退堂しました。



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

12月 4日 無原罪のマリア 九里 彰神父

2015年

3月 5日 洗礼と主の晩餐 福田正範神父

2. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日 10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

2015年

1月16日 聖テレジア・ベネディクタ 福田正範神父
(エディット・シュタイン)

3. 奉献生活者の為の黙想会

12月27日(土) 18時～2015年1月5日(月) 福田正範神父

4. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

5. 聖週間前の黙想会

2015年

3月19日(木) 18時～22日(日) 16時「十字架の神秘」 福田正範神父

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

木曜黙想会

「無原罪のマリア」

日 時： 2014年12月4日（木） 10時～16時

指 導： 九里 彰 師（カルメル会日本管区長）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

待降節黙想会

開催日：12月14日（日）

場所：カトリック上野毛教会

テーマ：「インマヌエルである神」

【8：30ミサ】

＜担当司祭：カルメル会司祭 今泉 健師＞

8：30～10：00 ミサ および 講話（聖堂）

10：00～ 黙想・ゆるしの秘跡

（修道院・信徒会館）

【10：30ミサ】

＜担当司祭：カルメル会司祭 福田正範師＞

10：30～12：00 ミサ および 講話（聖堂）

12：00～ 黙想・ゆるしの秘跡

（聖堂・信徒会館）

◇ 参加申し込みの必要はございません。

7：00 18：00 ミサも通常通りです

教会委員会

降誕祭のミサに参加するための黙想

*日時： 12月24日（水）夕食なし～25日（木）朝食後10時まで
24日（水）は、午後3時より入室できます。
講話は、ありません。
夜半のミサより主の日中のミサにかけて、主イエス・キリストの
ご降誕を黙想し、静修の時を過ごしましょう

*費用： ￥4000

*お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1789

E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp



2014年～2015年 黙想会案内（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2015年 1月 10日(土)～ 11日(日) 神の栄光・生きている人間 松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・1日（午前10時～午後4時）

11月 29日(土)

九里彰神父

2015年 2月 7日(土)

九里彰神父

【水曜の黙想】

・1日（午前10時～午後4時）

12月 17日(水) テレサと祈り

松田浩一神父

2015年 1月 14日(水) 神の国は近づいた

今泉健神父未定

2月 11日(水) キリストの教え(神と人間の尊厳)

松田浩一神父

3月 25日(水) 神のお告げ

今泉健神父未定

【四旬節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2015年 2月 28日(土)～3月 1日(日)

3月 28日(土)～3月29日(日)

【待降節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2014年 12月13日(土)～12月14日(日) 神の子の誕生

九里彰神父

【奉献生活者の黙想】

2014年（午後5時～午後9時）

12月27日(土)～ 1月 5日(月)

松田浩一神父

[『社会人\(働いている人\)のための霊的同伴』](#) → 別紙参照

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)~12月25日(木) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時~午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

十字架の聖ヨハネのミサと講話のお誘い

イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネ

2014年12月15日（月曜日）午前9：30～11：45

場所：カルメル修道会宇治修道院の聖堂

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：献金

交通：JR 奈良線六地藏駅・市営地下鉄東西線六地藏駅

徒歩 15 分・タクシー5 分

京阪六地藏駅 徒歩 20 分・タクシー7 分

お問い合わせ

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





イエスの聖テレサ (テレジア) 1515年3月28日生

生誕 500 年記念の年

〈2014年10月15日~2015年10月15日〉

主なプログラム〈関西地区〉

2014年10月15日(水) 午前11:00 開始ミサ <宇治カルメル修道院>

11月1日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.松田) <京都カテドラル>

テーマ: 16世紀スペインから輝く福音の光、聖テレサ

12月13日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.中川) <京都カテドラル>

テーマ: テレジアの希望による福音

〈2014年1月、2月も講話予定〉

2015年 3月21日(土) 午後 2:00 マキシミリア/神父(テレジア専門家)

講演会<京都カテドラル>

2015年 8月10日~8月14日 カルメルファミリー国際交流会


スペイン・アウイラで開催!!

尚、8月5日~8月9日まで、テレサの生誕500年記念のためにスペイン司教団・カルメル会共催のヨーロッパ青年大会が同じ場所で開催される。

詳しい情報は下記のところへ!

611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12 カルメル会修道院

担当 松田浩一神父

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457  teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「カルメル」
今日の靈性・秋号
四旬節講話特集号



カルメル 2014 特集号

2014 秋 No.354

「イエスの聖テレジアの
カリスマとその広がり」

神が慈しまれた道 (3)	今夜あなたと死にたいわ	西行と芭蕉の靈性 (5) ——「さびしさ」への旅	聖テレジアによる祈り (1) ——「人生は美しいことだけを覚えていればいい」	風にかかれて (1) ——「人生は美しいことだけを覚えていればいい」	二人の聖テレジア (3) ——マドレ・テレサの言葉に生かされて	エディット・シュタインと聖テレサ (3) ——カルメル会での修道生活における受苦と恩寵	自分の内に生きることなく生きる (3) ——テレジアの詩とヨハネの詩	二人の聖テレジア (3) ——マドレ・テレサの言葉に生かされて	エディット・シュタインと聖テレサ (3) ——カルメル会での修道生活における受苦と恩寵	出合いと靈的絆	テレジアと出会った十字架のヨハネ	二人のテレジア ——アビラのテレサとリジューのテレトズ	イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響	● 目次 ●
奥村一郎	森みさ	田畑邦治	ポーリン・フェルナンデス	原 造	伊従信子	須沢かおり	九里 彰	伊従信子	須沢かおり	須沢かおり	松田浩一	伊従信子	渡辺幹夫	
60	54	47	42	37	10	21	3	10	55	46	33	20	2	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

2015年予定

K1 1/17 (土) -1/23 (金) 東京・小金井・聖霊会

M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会

N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会

N2 4/30 (木) -5/6 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム

K3 6/12 (金) -6/14 (日) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日

T1 7/20 (月) -7/26 (日) 兵庫西宮・トラピスチヌ

K4 9/19 (土) -9/25 (金) 東京・小金井・聖霊会

N3 10/27 (火) -11/2 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム

T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ

K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

祈りの集い (午前10時～午後3時)

真命山の霊性

「聖母マリアと共に祈る」



自然 神はすべてを造り人の
手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで 祈り



静けさ 沈黙の中に神
の言葉を聞こう

信仰体験を
分つ 交わり

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2014年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見
— II 近世・近代・現代
「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[中世末期]
12/06, 12/20, 2015年 01/10, 01/17, 01/24,
01/31, 02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
12月6日、
2015年1月10日、2月7日、3月14日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度
[関東]
2015年
02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 17時30分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。
但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
2015年1月25日(日)

●クリスマス会

12月13日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。要申し込み。

●クリスマスのミサ

12月23日(火)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 12/05 人間の弱さ— 罪とは何か
12/12 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404、要申し込み)
12/19 愛の心— キリスト教の本質
12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内カルトウルハイム2階、80人限定)
12/26, 1/2〇休み
2015年
01/09 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
01/16 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
01/23 霊の動き— 福音による生き方
01/30 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰
02/06 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/13 結婚と独身— 愛の道
02/20 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
02/27 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)
03/06 人間の苦悩— 悪とは何のためか
03/13 死— その受け入れと克服
03/20 人生の完成— 神の内に生きる
03/27 聖母マリア— 信じる者の原型
04/05 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内カルトウルハイム2階、80人限定)



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [イエス]
12/02 御子の受肉 — 神の子と人の子
12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404;要申し込み)
[聖霊]
12/16 神の内的現存 — 人間における聖霊の働き
12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、カルトウルハイム2階、80人限定)
01/06 三位一体の神 — 救いの構造から神内の存在へ
[教会]
01/20 信仰者の共同体 — 教会の本質
02/03 救いのしるしと実現 — 秘跡の意味
02/17 憐れみと愛の祝い — 罪のゆるしとミサ
02/28-3/1 ●黙想会(上石神井)
03/03 「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト
03/17 人間と世界の究極の未来 — 終末の約束
03/31 信仰者の原型 — 聖書に見られるイエスの母
04/05 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内カルトウルハイム2階、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ



すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

2014年 12月20日(土) 「飼い葉おけに置かれた神」

2015年 1月24日(土) 「パウロの祈り」

2015年 2月21日(土) 「四旬節の祈り」

2015年 3月28日(土) 「イエスの祈り」

午後2時 ～ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

《年末の静修の日》は今年はありません。

12月20日に「飼い葉おけに置かれた神」とその母と共に祈り、
新しい年を迎えたいと思います。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

○ 2014 年 12 月 27 日 (土) ~ 2015 年 1 月 4 日 (日)

① 2015 年 4 月 29 日 (水) ~ 5 月 7 日 (木)

② 8 月 14 日 (金) ~ 8 月 22 日 (土)

③ 10 月 26 日 (月) ~ 11 月 3 日 (火)

④ 12 月 27 日 (日) ~ 2016 年 1 月 4 日 (月)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2015 年 2 月 6 日 (金) ~ 2 月 8 日 (日)

② 2 月 27 日 (金) ~ 3 月 1 日 (日)

③ 3 月 20 日 (金) ~ 3 月 22 日 (日)

④ 6 月 19 日 (金) ~ 6 月 21 日 (日)

⑤ 7 月 17 日 (金) ~ 7 月 19 日 (日)

⑥ 9 月 18 日 (金) ~ 9 月 20 日 (日)

⑦ 11 月 27 日 (金) ~ 11 月 29 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2015 年 5 月 25 日 (月) ~ 6 月 2 日 (火) 澤田豊成 師 (パカ会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	2015 年 1/9(金)17:30- 1/12(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
入門C	1/18(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4日	1/24(土)9:30- 25(日)17:00 1/31(土)9:30- 2/1(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
日帰り フォロー アップ	2/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	3/18(水)17:30- 3/22(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A.B.C) 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

I をいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

12月11日（木）『靈魂の城』第六の住居・第七章
2015年 2月19日（木）、4月9日（木）、6月11日（木）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ

先：042-473-6287 篠原

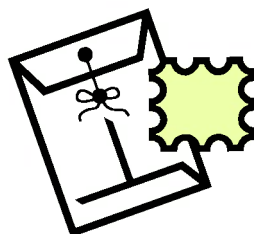


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2015年)1月から12月までの『霊性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月号でお知らせすべき News であったが、6月末に宣教師として来日し、日本語を学んでいた二人のインドネシアのカルメル会士、ウィリー助祭とジョニー助祭が9月末、いったん祖国へもどり、10月中旬、司祭に叙階された。日本管区として二人を派遣してくれたことに対する感謝の意を表すため、彼らの叙階式、初ミサに参加した。

場所は、カトリックが9割というフローレス島の山奥の町、バジャワの教会であった。当日は、教区の助祭4人と共に、彼らの叙階式が行われた。大きな教会堂の外に大きなテントがいくつもはられ、中に入れない人々——どこかの国のようにお爺さん、お婆さんだけでなく、老若男女——が、外で与っていた。初ミサもそうであったが、町中、村中が新司祭の誕生を祝っており、生活の中心にキリスト教が息づいていた。ウィリー神父とジョニー神父は、来月、再来日し、日本語を本格的に勉強することになっている。彼らの上に神の導きと豊かな祝福を祈りたい。

(P. 九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日

[12月30日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171